

APP 環境新聞

発行日 2021年12月2日

発行者 エイピーピー・ジャパン株式会社



APPは持続可能な開発目標 (SDGs)を支援しています。



エコプロ 2021 に9年連続で出展!

エイピーピー・ジャパン株式会社 (APPジャパン) とユニバーサル・ペーパー株式会社 (UP) は、合同でエコプロ2021に出展します。昨年のオンライン開催も含めて2013年から毎年参加し、9回目の出展となる本年度のブーステーマは「つなぐ」です。

今回の展示は、両社社員を対象に実施した事前アンケートやワークショップを通じて出てきた意見から、「製品に紐づいたSDGs達成への取り組みや脱炭素対策」に焦点を当てたほか、「古紙パルプとバージンパルプ」や「PEFCと他の森林認証の比較」といった、お取引先様から良く訊かれるテーマについても準備をしています。ぜひ足をお運びください。



APPの全活動をイラストにまとめて展示します

12月8日(水)~10日(金)

10:00~17:00

<https://eco-pro.com/eco2021/>

(参加無料、登録制)



COP26 APPの持続可能性担当役員が登壇

10月31日~11月12日、英国グラスゴーで COP26 (国連気候変動枠組条約第26回締約国会議) が開催されました。

今年7月、インドネシア政府は遅くとも2060年までにカーボンニュートラル(温室効果ガス排出実質ゼロ)を目標とすることを表明し、ジョコ・ウィドド大統領が COP26で演説しました。

APPの持続可能性担当役員エリム・スリタバも COP26のインドネシア・パビリオンに登壇し、インドネシア政府の目標に賛同すると共に、その方針に沿った企業の取り組みとして、DMPA(森林火災防止のための地域活性化)プログラム、森林保護方針に基づく持続可能な森林管理、60万haの自然林の保護、泥炭地の最善管理計画の策定に向けたLiDAR(光を用いたリモート・センシング技術)を使った泥炭地マッピング(実態調査)、7,000haに及ぶ泥炭地上植林地の閉鎖などによるCO2排出削減の例を紹介しました。

パンデミック、ラマダン……予定通りには進まない植樹計画

~「森の再生プロジェクト」活動報告 <3> ~



昨年末から今年年始にかけて、5ヘクタール(ha)に2,500本の苗を植えた後、2月には次の植樹エリアの検討が始まりました。ところが、新型コロナウイルス感染対策としてインドネシア政府がロックダウンに近い措置を取ったため、現地調査の人員が確保できません。

その後4月に候補地探しを再開しましたが、今度はイスラム教徒にとって大切なラマダン(断食)月と時期が重なってしまい、主要なスタッフが帰省してしまいます。6月ようやく調査を再開することができましたが、SPM社(APPグループの植林会社)が管理する初回の植樹エリア周辺は低木や雑草が多すぎてメンテナンスが困難であることが判明し、植樹エリアを探してより広範囲に調査を行う必要に迫られました。

調査の結果、別の植林会社であるBBHA社が管理する森林地区内に候補地を見つけることができ、SPM社には引き続き苗を供給してもらいながら、BBHA社には、森の奥深くに位置する植樹エリアにボートでアクセスできるよう、運河に堆積した枯れ木や枯れ葉の除去作業をお願いすることにしました。こうした協働を経て、ようやく8月に10haに及ぶ2回目の植樹を実施することができました。

候補地探しが難航している間、初回植樹エリアのモニタリングを行いました。ラミン種を中心に400本ほどが枯れていたため、生存率の高いメランチに植え替えました。計画通りに進まなかった1年ですが、この経験を糧に、プロジェクトは2021年8月から2年目を迎えました。(次号報告に続く)



今回もSPM社が苗を提供

第3回「SDGsグローバル エンゲージメントカンファレンス」で高校生と対話

11月20日、「The 3rd SDGs Global Engagement Conference」第10回記念高校生国際ESDシンポジウムがオンライン開催されました。このシンポジウムに際して、APPジャパンは「エシカル商品を研究・提案～EX(エシカル・トランスフォーメーション)ワークショップ～」と題する分科会を受け持たせていただき、プログラムを提供しました。

分科会ではインドネシアの森林保護を中心としたSDGs達成に向けた取り組みや、日本のステークホルダーの認知向上を目的とした活動について紹介し、PEFC認証製品であるUP製 Helloティッシュを題材に、このような環境に優しい製品がエシカル商品として消費者の支持を得るにはどのような工夫が必要か、参加した高校生にチームに分かれて議論していただきました。

「素晴らしい取り組みなので、製品にQRコードを付けて詳しく調べてくれた人には割引サービスを案内してはどうか」「環

境にやさしいアピールとしてクラフト紙で包装したり、英字新聞をイメージしたお洒落なデザインにするのはどうか」「詰め替え用の布ケースを作ったり、大人買い(箱ごと購入)するお客様向けに段ボールそのものに取り組みの紹介を印刷してはどうか」「認知向上のために取り組みを多言語で紹介したり、製品を学校に置くのはどうか」など、企業として痛感している指摘から斬新な提案まで、幅広い意見を発表していただきました。

このような高校生との対話から、私たちの取り組みをしっかりと消費者に伝える重要性を改めて認識しました。



SDGsグローバル エンゲージメントカンファレンス分科会の様子

2021年度JEI「SDGsサーベイ」実施 ～エシカル・アクションの意識・行動指数は上昇中～

今年10月、APPジャパンとUPの全社員を対象に、一般社団法人日本エシカル推進協議会(JEI)による「SDGsサーベイ」を実施しました。SDGsを「自分ごと」にするエシカル・アクション50問に回答する本調査をAPPジャパンが行うのは、2019年と2020年に続き本年が3年目です(UPは今回が初めて)。

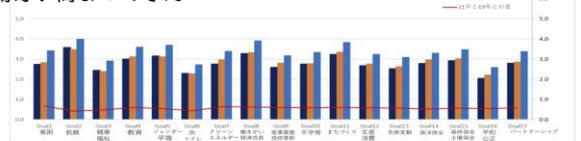
APP ジャパン社員の自己診断に基づく調査の結果、SDGsに対する認識や行動が17ゴールすべてにおいて伸長しているという結果が報告されました。また、企業人一般回答の平均と比較し、情報力・行動力・達成力において上回るスコアとなり、特に組織内で未来志向の対話を行ったり、商品のサプライチェーンを意識する傾向が顕著に高くなりました。

これは、まもなく開催される環境展示会エコプロの企画について、全社員を対象としたアンケートを行い、ワークショップを通じて意見やアイデアを募ったことにより、社員ひとりひとりのSDGsに対する関心が上がったことが影響していると分析しています。



17Goals APPJにおける2019年～2021年の比較
17のGoal全てで2019年～2021年に0.6pt前後の伸長

3年間でSDGsへの認識度・行動力が高まってきた



JAPAN DIY HOMECENTER SHOWに出展

10月7～9日、住生活に関する日本最大級の総合展示会「JAPAN DIY HOMECENTER SHOW」が幕張メッセで開催されました。

APPジャパン/UPもインドネシア・パビリオンの一部として出展し、SDGs達成に向けた取り組みを紹介するとともに、木材原料に植林木を100%使用したインドネシア製のコピー用紙やティッシュペーパーなど、環境にやさしい製品の展示を行いました。

ブースには全国のホームセンターの経営層やバイヤーの皆さまがご来場され、当社の取り組みと製品について大きな関心をお寄せいただきました。



当社品を視察するトウリ・駐日インドネシア公使と日本DIY協会 稲葉会長

こんにちは、ナビラ・アリストです

今年3月、インドネシアの留学生ナビラ・アリストさんを迎え、SDGsに関するAPPの環境取り組みや、PR業務としてエッセイライティングを学んでいただきました。下記にナビラさんによるエッセイを紹介します。

『キラキラ』

インドネシアには「キラキラ」という言葉があります。「だいたい」や「てきとくに」という意味です。インドネシア人はのんびりとした生き方を好み、何をやるにしてもゆっくりと… つづきはこちら：



ナビラ・アリストさん

<http://www.app-j.com/topics/1684.html/>



インドネシアの熱帯林保護のため、ご協力をお願いします/バランタラ基金への寄付・協力の方法

1. APP ジャパンの「森の再生プロジェクト」対象製品を購入する→売上の一部が寄付されます
2. 個人・法人等で寄付をお考えの方→APP ジャパンにご連絡ください(sustainability@appj.co.jp)